

区民アンケート 実施結果

目 次

1	区民アンケート（一般区民）調査概要と回答者の属性	2
---	--------------------------	---

2	主な設問の集計結果	5
---	-----------	---

3	結果のまとめ	23
---	--------	----

4	区民アンケート（小・中学生）調査概要	25
---	--------------------	----

5	主な設問の集計結果	27
---	-----------	----

6	結果のまとめ	35
---	--------	----

1 区民アンケート（一般区民） 調査概要と回答者の属性

調査概要

対象

葛飾区在住、満18歳以上のインターネットリサーチ会社モニター
(区内7地区の人口構成比に応じて回答者数を設定)

目的

- 緑・水辺に対する意識・評価の把握
- 緑・水辺と接する機会・利用方法の把握
- 区の実施の方向性に関する意向把握
- 協働への意識の把握

方法

インターネットリサーチ会社のフォームによるオンライン回答

期間

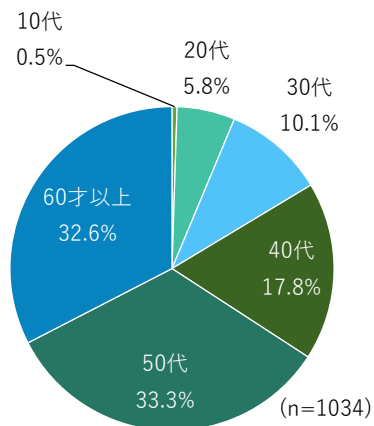
令和6年12月20日(金)～12月23日(月)

回答数

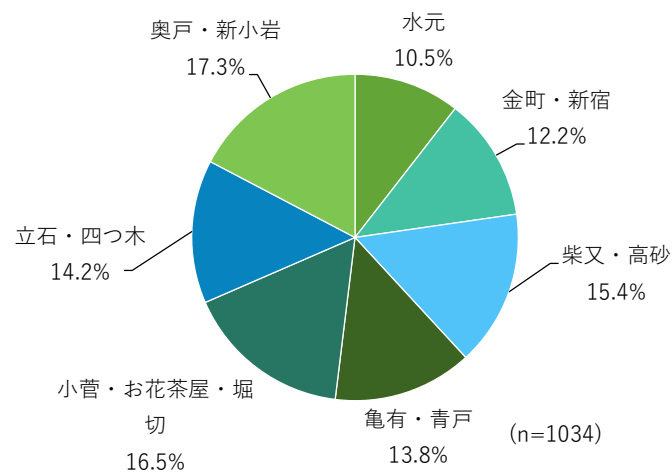
回答数 1034件

回答者の属性

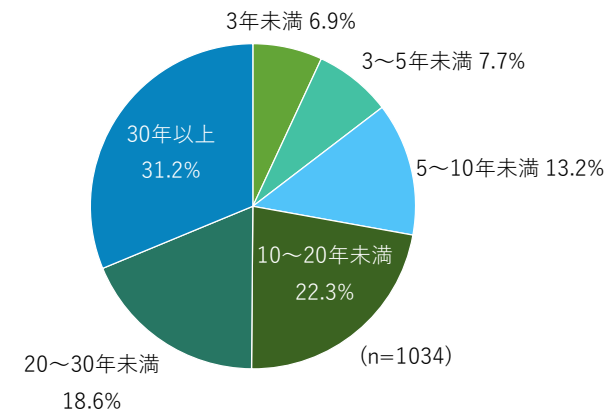
【年齢】



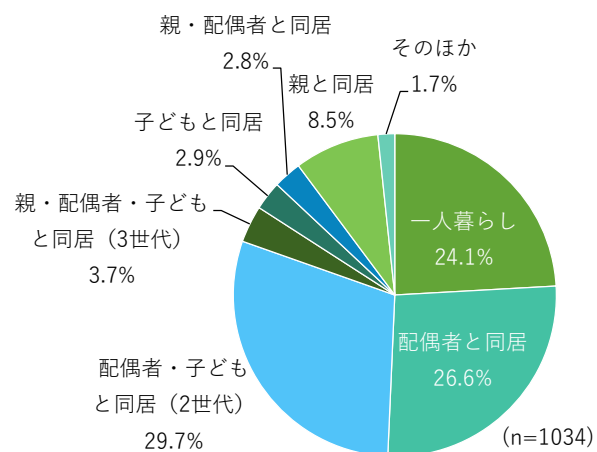
【居住地】



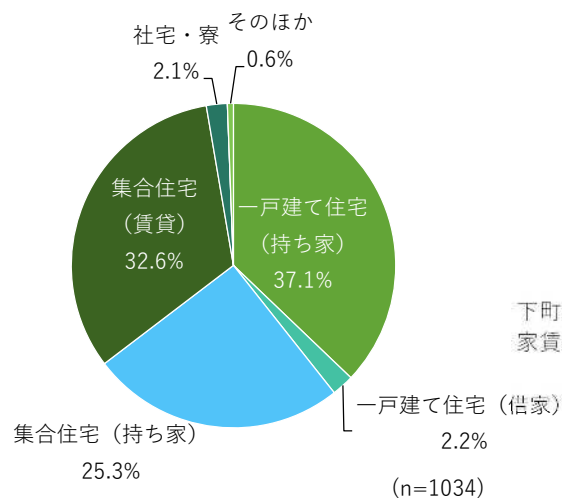
【葛飾区在住歴】



【世帯構成】



【住居形態】



【居住理由】



2 主な設問の集計結果

① 住まい周辺の緑の量

② 「まちの魅力を高める」という要素としての緑の満足度

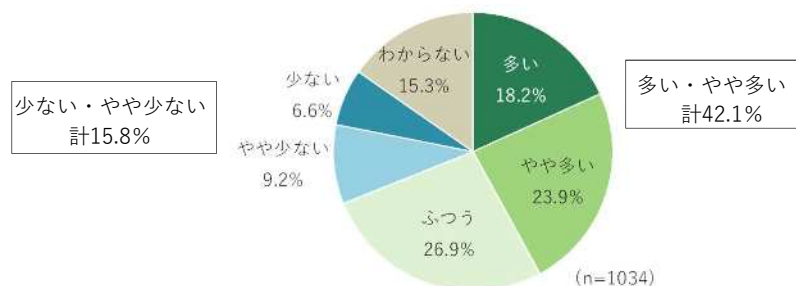
◇ 緑の量は、多い・やや多いとの回答割合が高く、居住地別では緑被率が高い水元地区、金町・新宿地区において、多い・やや多いと感じる割合が高い。

◇ 緑の満足度については、「ふつう」(43.0%)が最も多く、次いで「どちらかという満足できる状態である」(25.7%)となっており、満足寄りの回答が不満寄りの回答を上回っている。

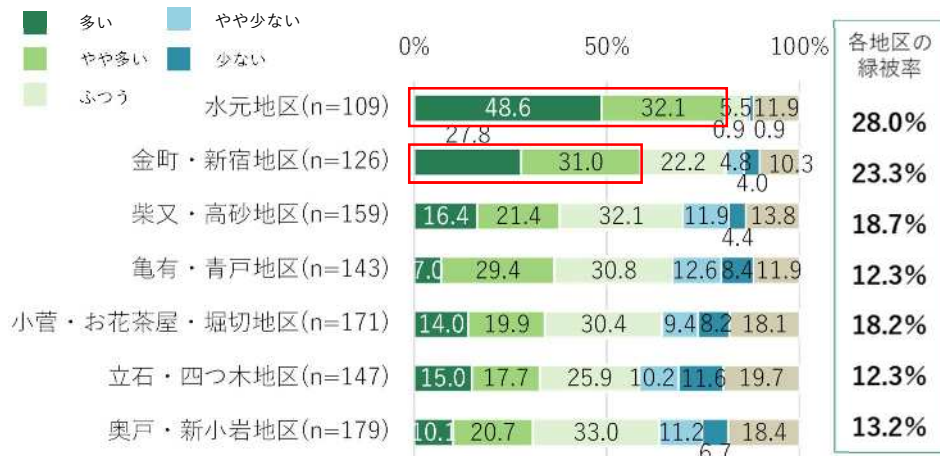
◇ 居住地別では、緑被率が高い水元地区、金町・新宿地区において満足度が高い。

住まい周辺の緑の量

【全体】

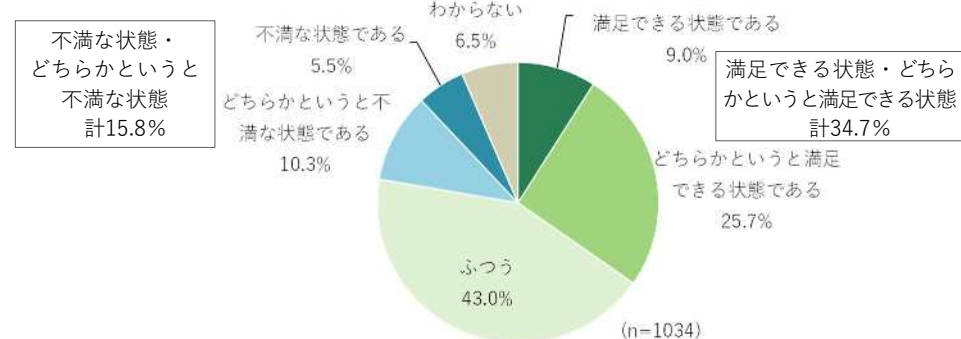


【居住地別】

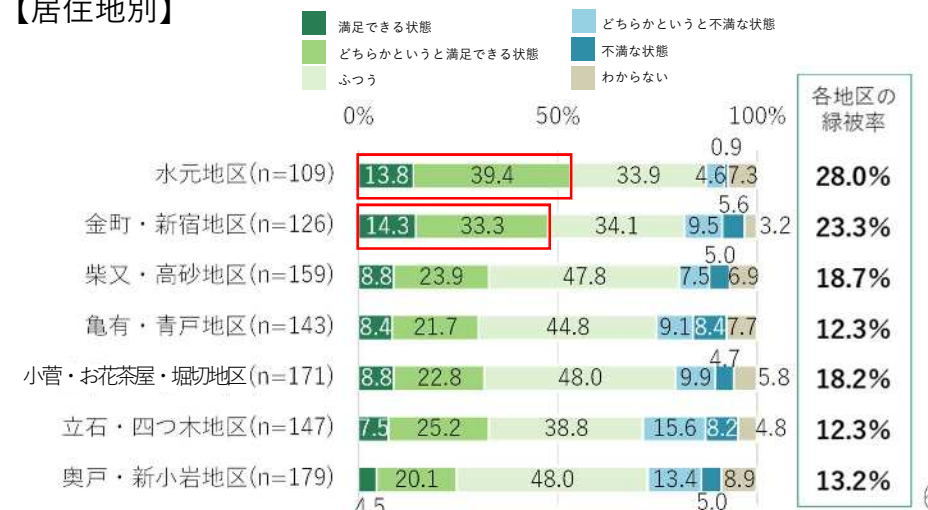


【全体】

緑の満足度



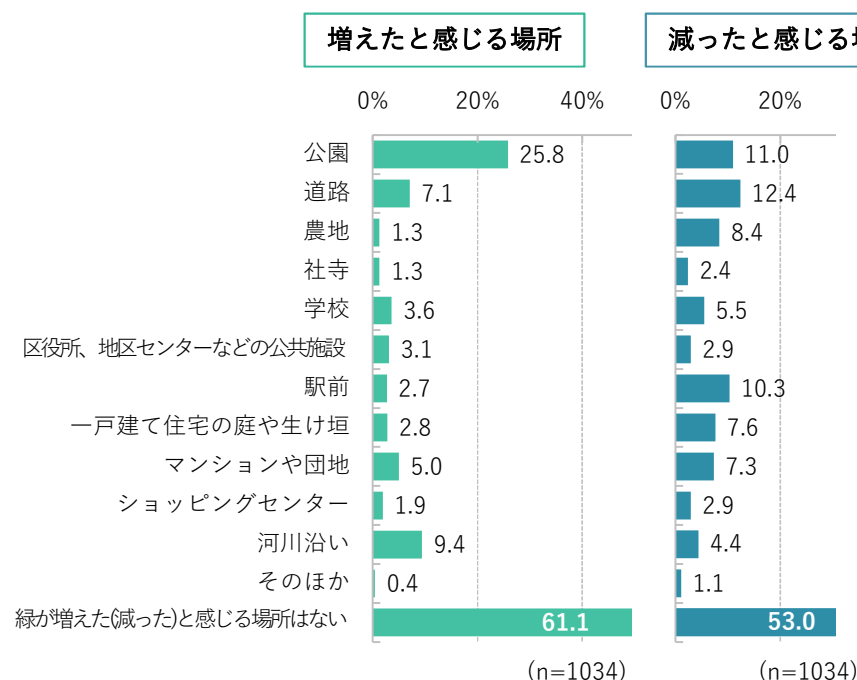
【居住地別】



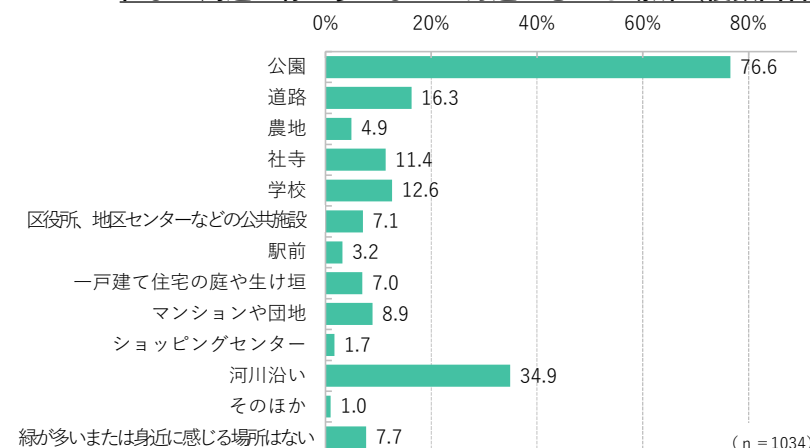
- ③ 過去10年に住まい周辺で緑が増えた・減ったと感じる場所
- ④ 住まい周辺で緑が多い、または身近に感じる場所
- ⑤ 今後増やしていく必要があると感じる緑

- ◇ 緑が増えたと感じる場所、減ったと感じる場所は、ともに「ない」が最も多い。
- ◇ 緑が多いまたは身近に感じる場所は「公園」（76.6%）、「河川沿い」（34.9%）の割合が高い。
- ◇ 増やしていく必要があると感じる緑は、「公園の緑」（33.6%）、「道路沿いの緑」（32.3%）の割合が高い。

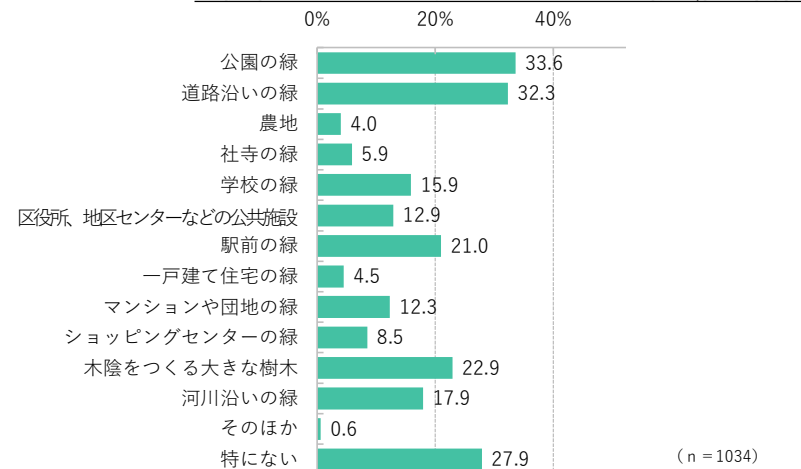
過去10年に住まい周辺で緑が
増えた・減ったと感じる場所（複数回答）



住まい周辺で緑が多いまたは身近に感じる場所（複数回答）



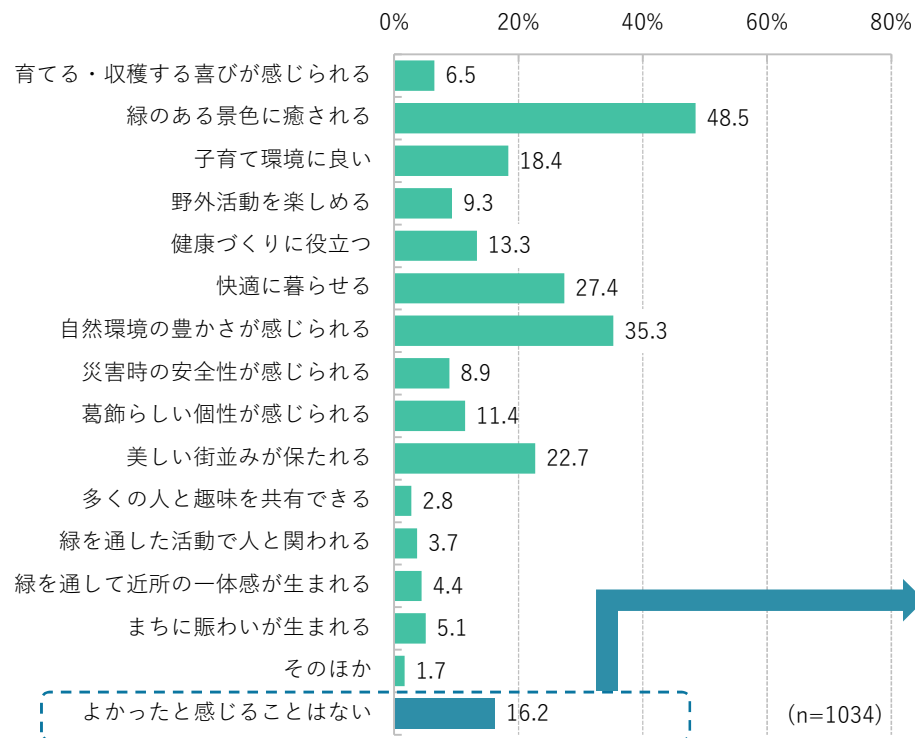
今後増やしていく必要があると感じる緑（複数回答）



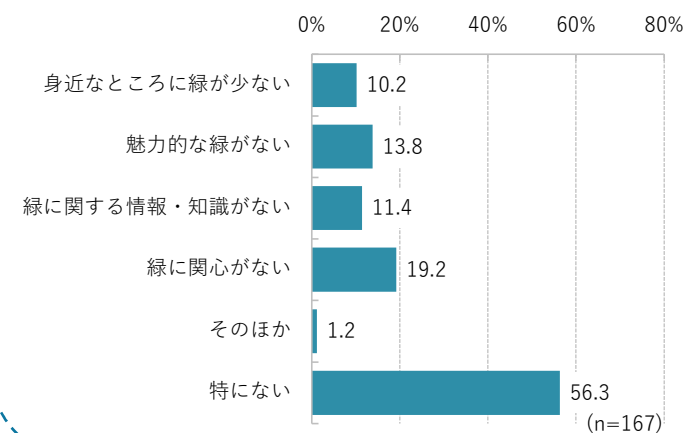
⑥ 緑があってよかったと感じる時

◇ 緑があってよかったと感じる時は「緑のある景色に癒される」（48.5%）、「自然環境の豊かさが感じられる」（35.3%）など、緑の存在による効果が多く選択。

緑があってよかったと感じる時（複数回答）



よかったと感じることはない理由（複数回答）

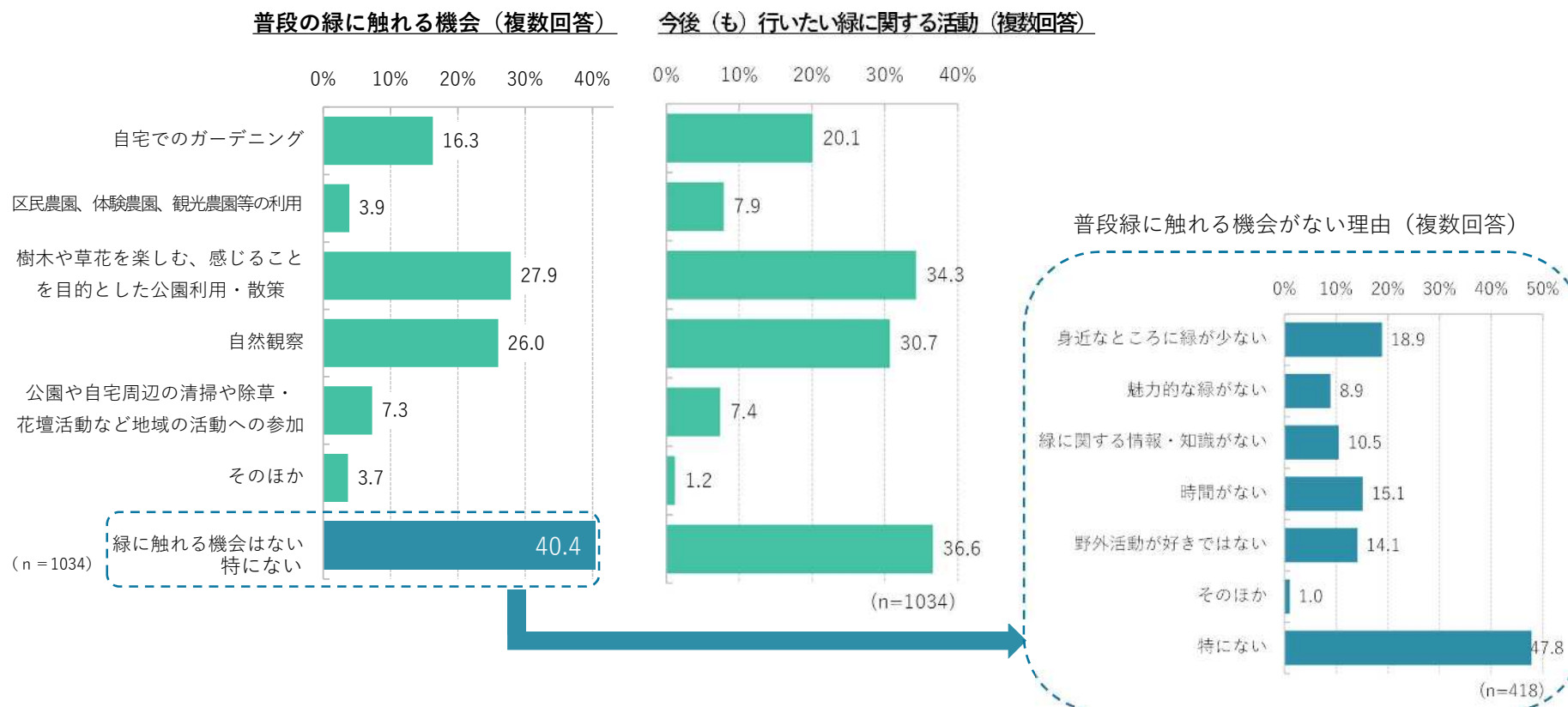


⑦ 普段の緑に触れる機会

⑧ 今後（も）行いたい緑に関する活動

◇ 緑に触れる機会として回答があったうち「樹木や草花を楽しむ、感じることを目的とした公園利用・散策」が最も多く（27.9%）、次いで「自然観察」（26.0%）、「自宅でのガーデニング」（16.3%）の割合が高い。

◇ 地域の活動（公園や自宅周辺の清掃や除草・花壇活動など）への参加や区民農園等の利用の回答者割合は1割以下。

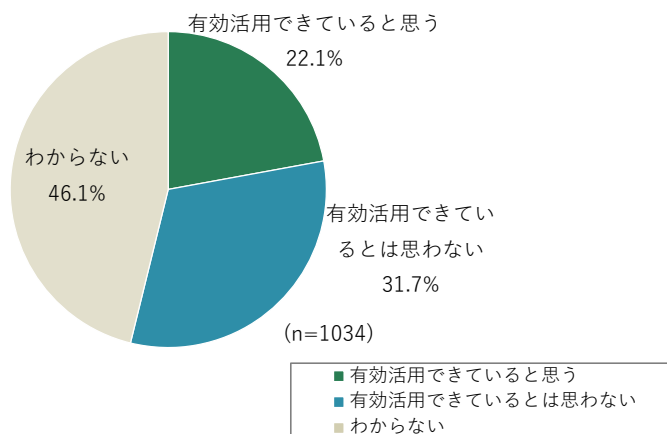


⑨ 区の実践において水辺の有効活用ができているかどうか

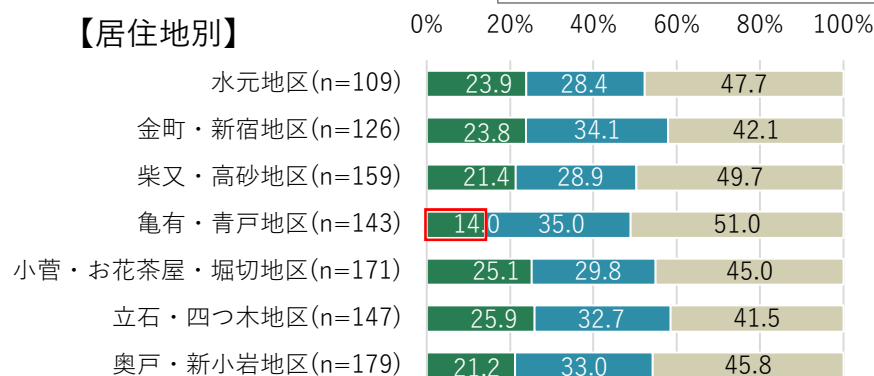
⑩ 区内で親しみを感じる水辺

- ◇ 水辺の有効活用ができているかは、「わからない」が最も多く（46.1%）、「有効活用できているとは思わない」（31.7%）が「有効活用できていると思う」（22.1%）を上回っている。
- ◇ 居住地別では、亀有・青戸地区において「有効活用できていると思う」（14.0%）とした割合がやや低い。
- ◇ 区内で親しみを感じる水辺は、「荒川、江戸川の河川敷」（42.5%）が最も多く、次いで「中川・新中川の親水テラス」（29.8%）となっている。

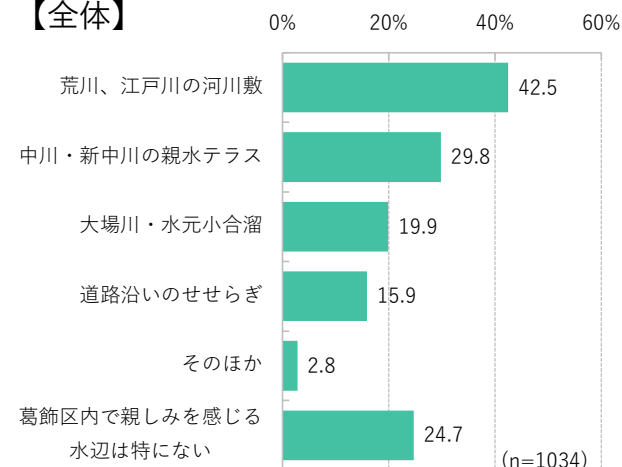
【全体】 区の実践において水辺の有効活用ができていると思うか



【居住地別】



【全体】 区内で親しみを感じる水辺（複数回答）



参考 居住地別の回答割合

	水元地区 (n=109)	金町・新宿 地区 (n=126)	柴又・高砂 地区 (n=159)	亀有・青戸 地区 (n=143)	小菅・お花 茶屋・堀切 地区 (n=171)	立石・四つ 木地区 (n=147)	奥戸・新小 岩地区 (n=179)
荒川、江戸川の河川敷	26.6	50.0	50.9	27.3	56.7	40.1	39.7
中川・新中川の親水テラス	32.1	17.5	37.1	33.6	22.2	32.7	32.4
大場川・水元小合溜	52.3	36.5	10.7	17.5	12.3	18.4	7.3
道路沿いのせせらぎ	9.2	7.1	12.6	20.3	21.6	15.0	20.7
その他	0.9	3.2	3.1	4.9	3.5	2.7	1.1
特にない	16.5	21.4	18.9	31.5	22.8	25.2	33.0

⑪ 水辺の利用方法・利用頻度・利用時間帯

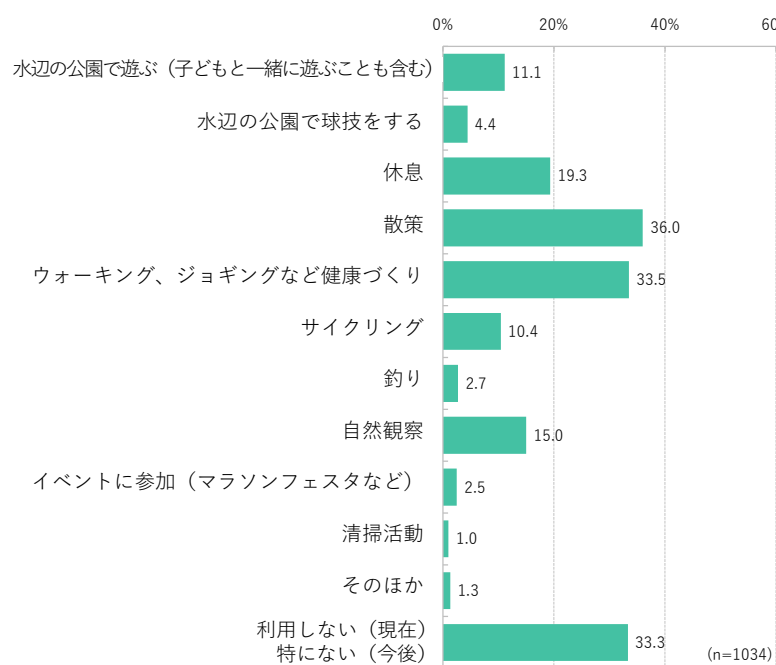
⑫ 今後（も）行いたい水辺の利用方法

◇ 水辺の利用方法は、「散策」（36.0%）、「ウォーキング、ジョギングなど健康づくり」（33.5%）が多く、今後行いたいとされている利用方法も同様。

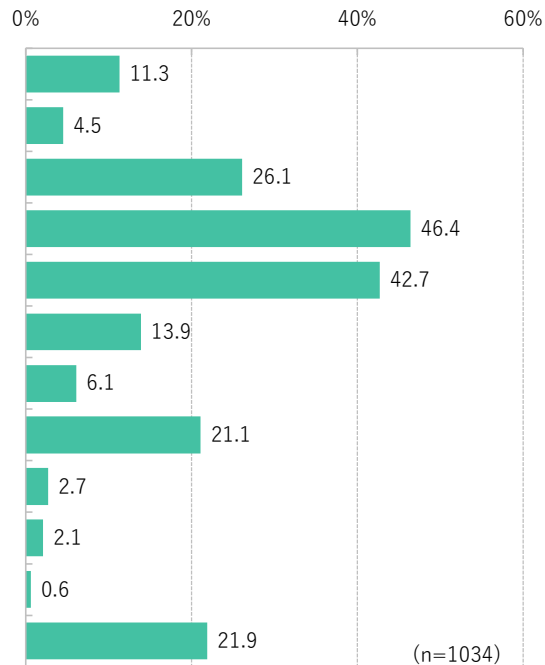
◇ 利用頻度は、「週1～2回」から「半年に1回以下」が同程度の割合。

◇ 利用時間帯は、休日の午前中・午後の回答割合が高い。

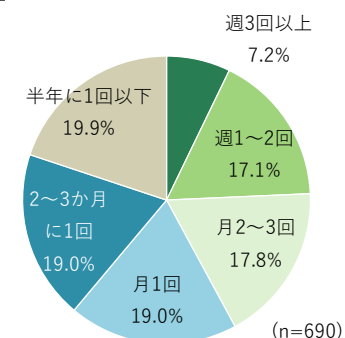
普段の水辺の利用方法（複数回答）



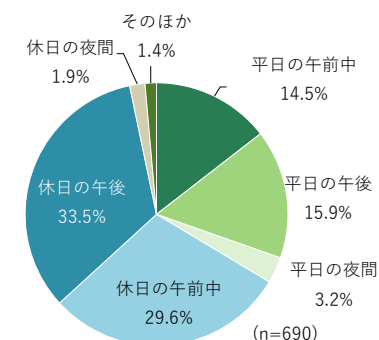
今後（も）行いたい水辺の利用方法（複数回答）



水辺の利用頻度



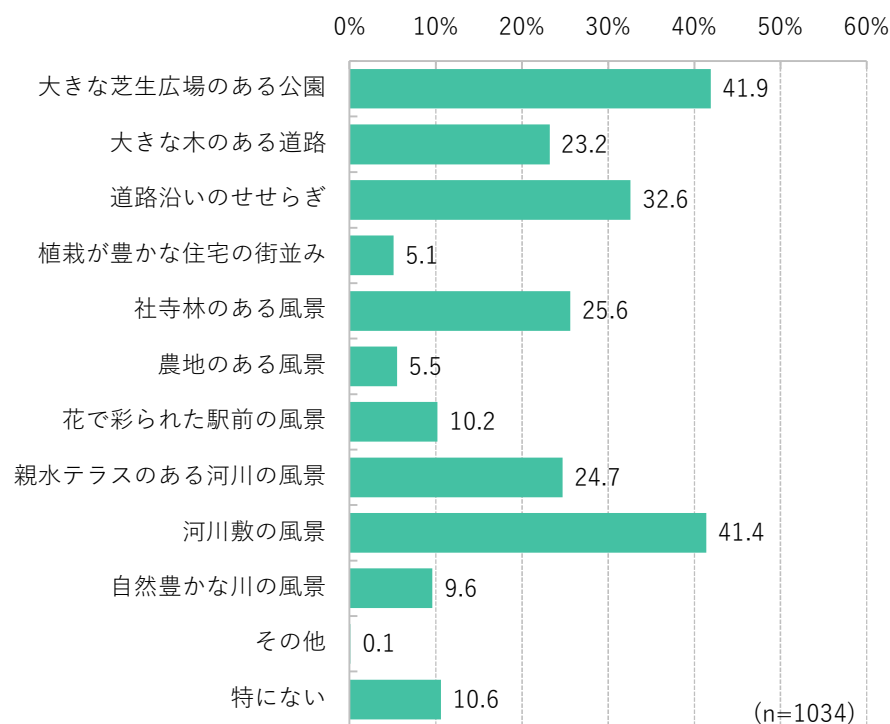
水辺の利用時間帯



⑬ 葛飾らしい緑と水辺の風景

- ◇ 「大きな芝生広場のある公園」 (41.9%)、「河川敷の風景」 (41.4%)、「道路沿いのせせらぎ」 (32.6%) の割合が高い。
- ◇ 居住地別では (次頁参照) 「大きな芝生広場のある公園」を選んだ割合は水元地区、金町・新宿地区で特に高い。また、「河川敷の風景」は、江戸川に面する金町・新宿地区、柴又・高砂地区において高い。

葛飾らしい緑と水辺の風景 (3つまで選択)



大きな芝生広場のある公園



大きな木のある道路



道路沿いのせせらぎ



植栽が豊かな住宅の街並み



社寺林のある風景



農地のある風景



花で彩られた駅前の風景



親水テラスのある河川の風景



河川敷の風景

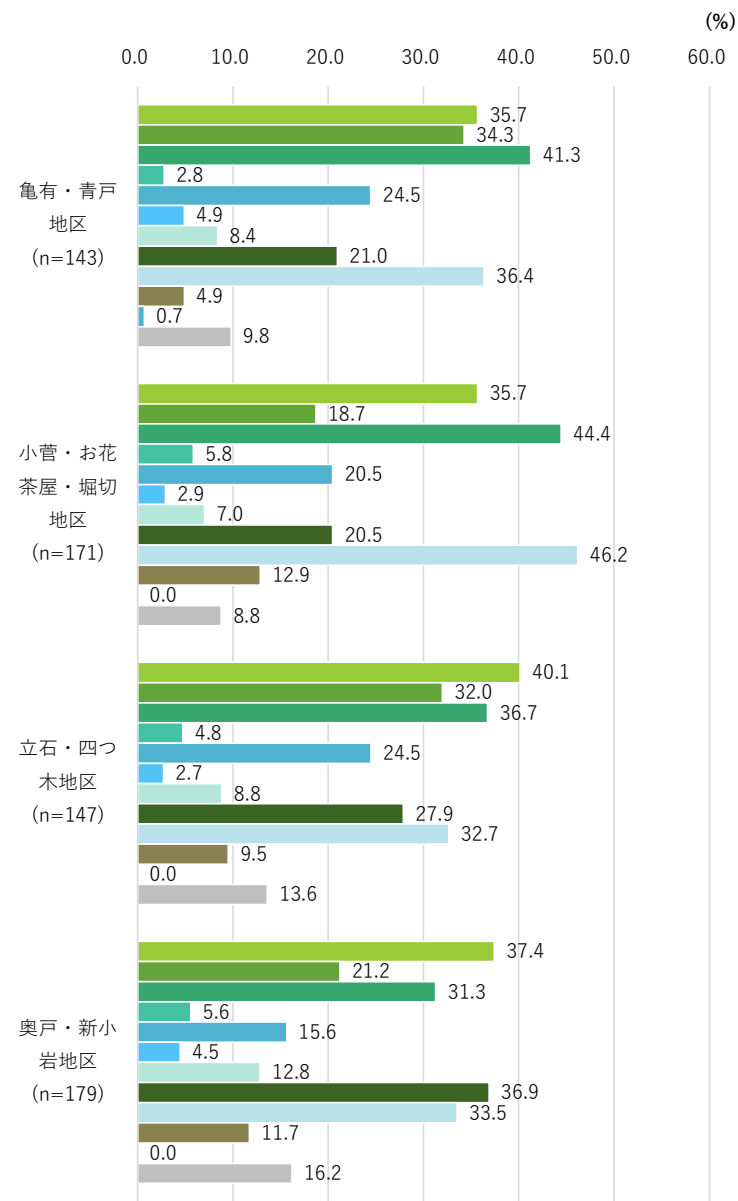
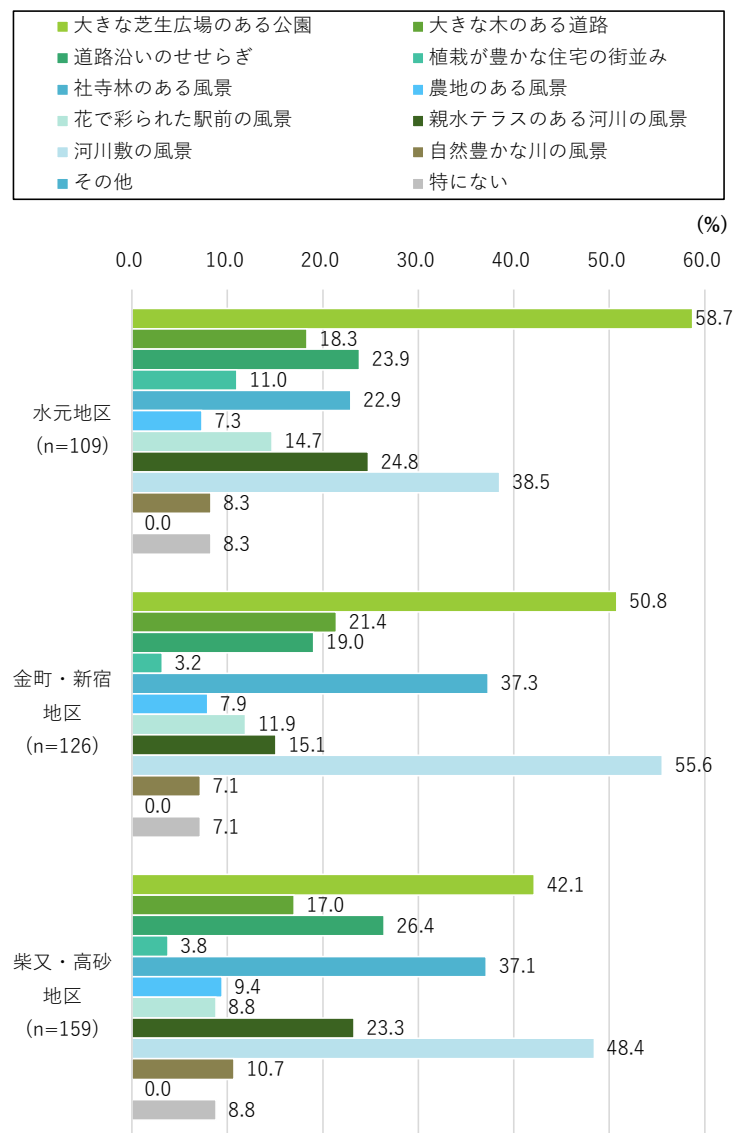


自然豊かな川の風景



⑬ 葛飾らしい緑と水辺の風景

【居住地別】



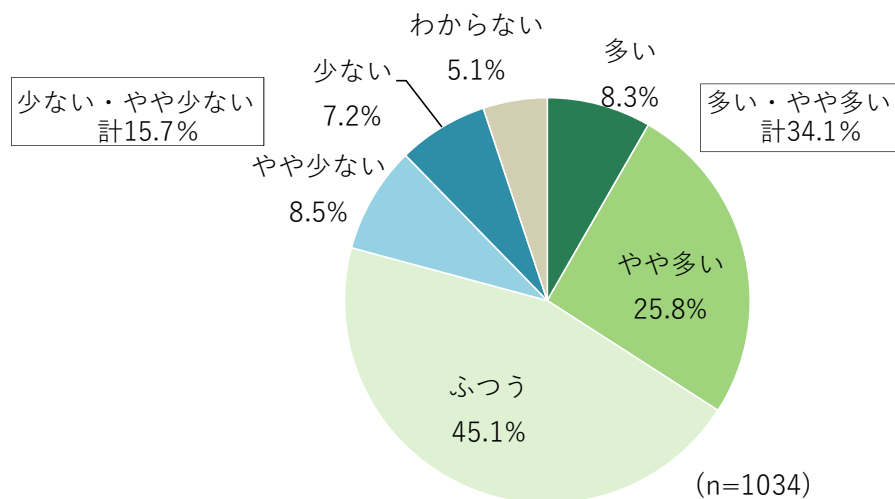
⑭ 住まい周辺の公園の量

◇ 「ふつう」が最も多く（45.1%）、多い・やや多いの合計（34.1%）が、少ない・やや少ないの合計（15.7%）を上回っている。

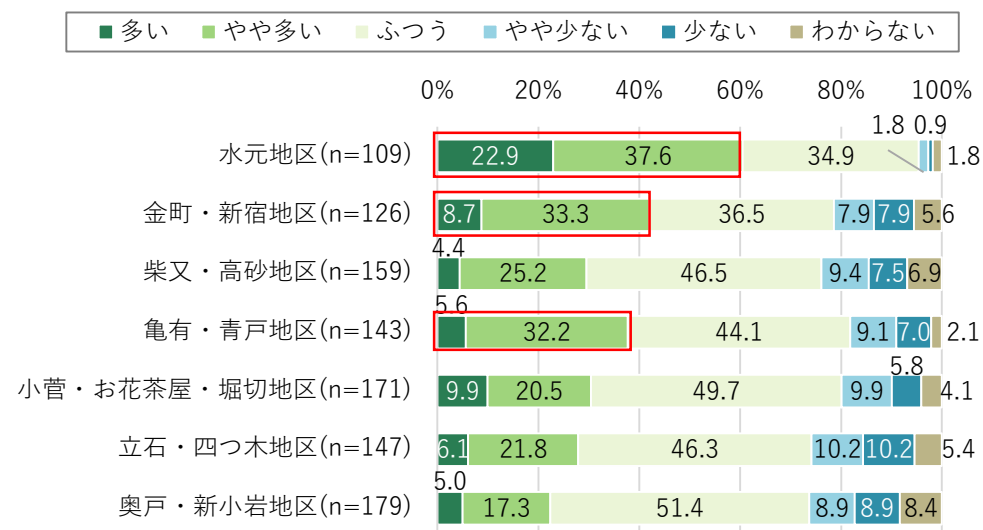
◇ 居住地別では、水元地区、金町・新宿地区、亀有・青戸地区において、多い・やや多いの割合が高い。

住まい周辺の公園の量

【全体】



【居住地別】

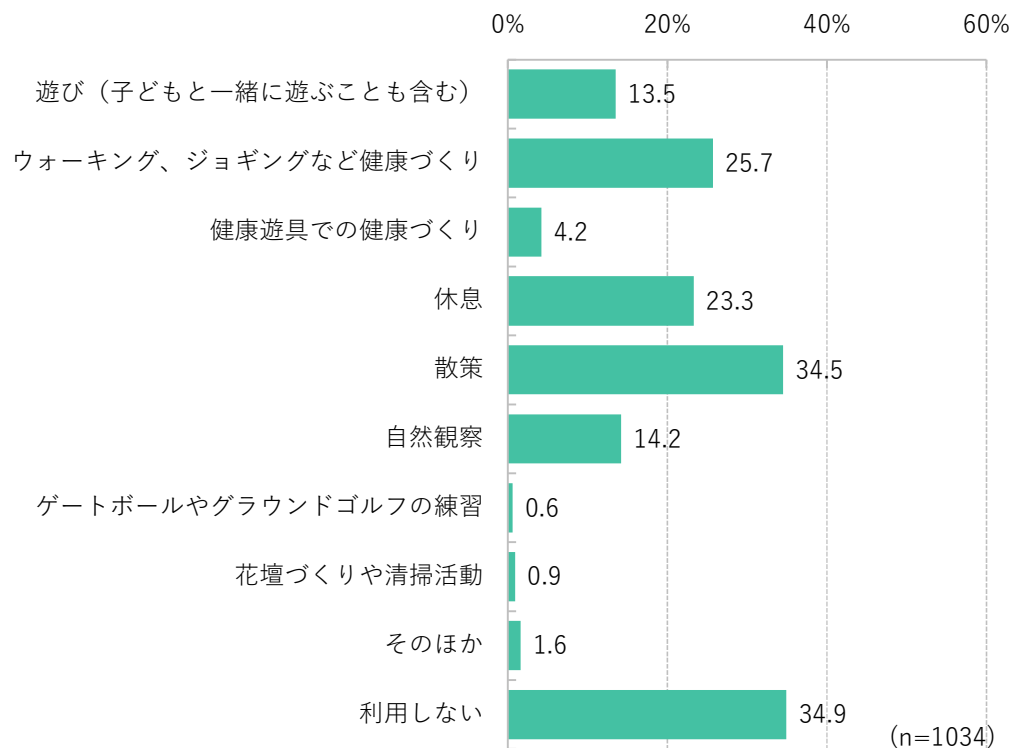


⑮ 公園の利用方法・利用頻度・利用時間帯

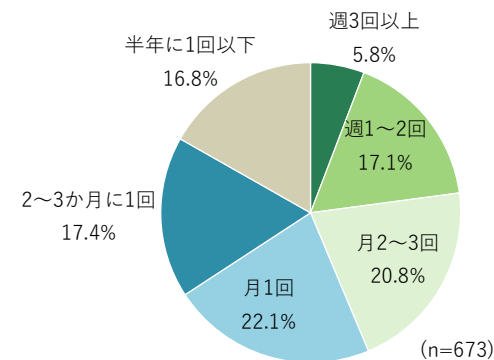
◇ 利用方法で回答があったうち、散策（34.5％）が最も多く、次いでウォーキング、ジョギングなど健康づくり（25.7％）、休息（23.3％）の割合が高い。

◇ 利用頻度は月1回（22.1％）の割合がやや高く、利用時間帯は休日の午前・午後の割合が高い。

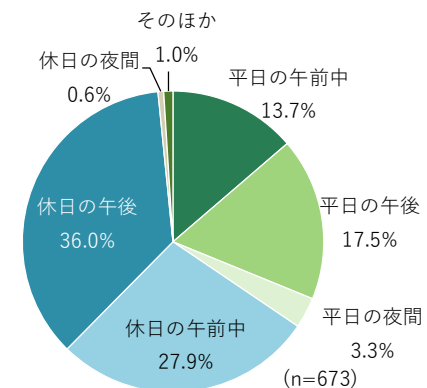
公園の利用方法（複数回答）



公園の利用頻度



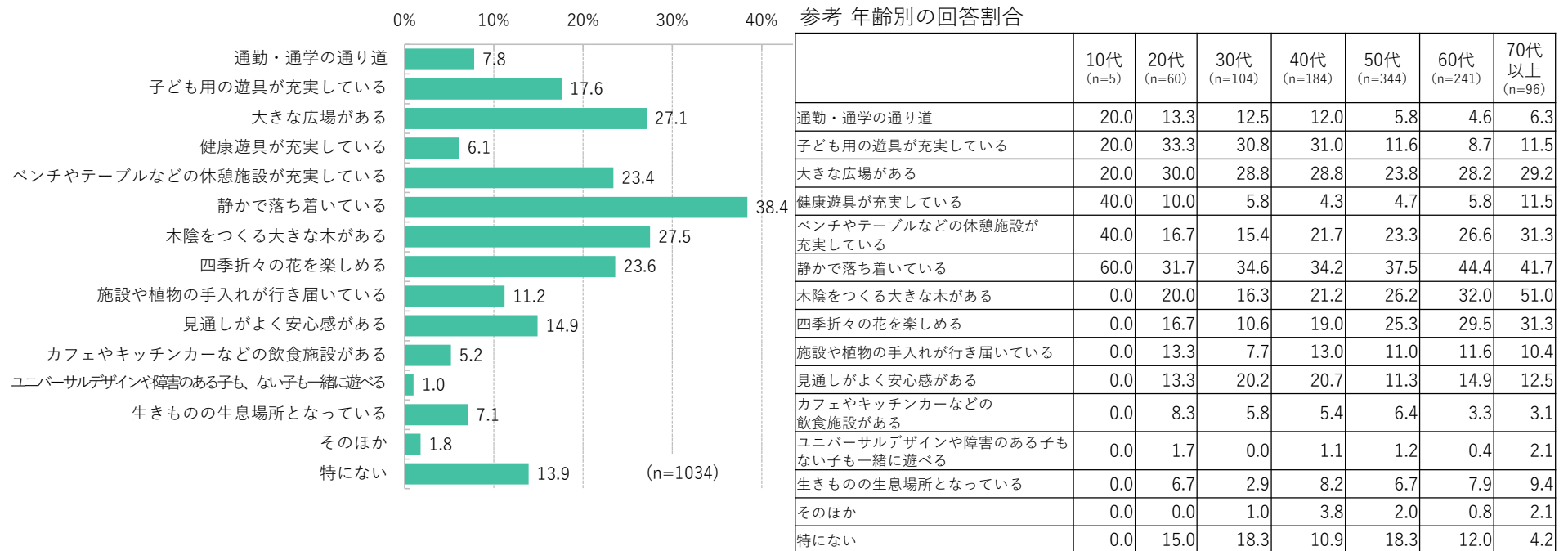
公園の利用時間帯



⑩ 身近な公園に望むこと

◇ 「静かで落ち着いている」 (38.4%)、「木陰をつくる大きな木がある」 (27.5%)、「大きな広場がある」 (27.1%) などが望まれている。

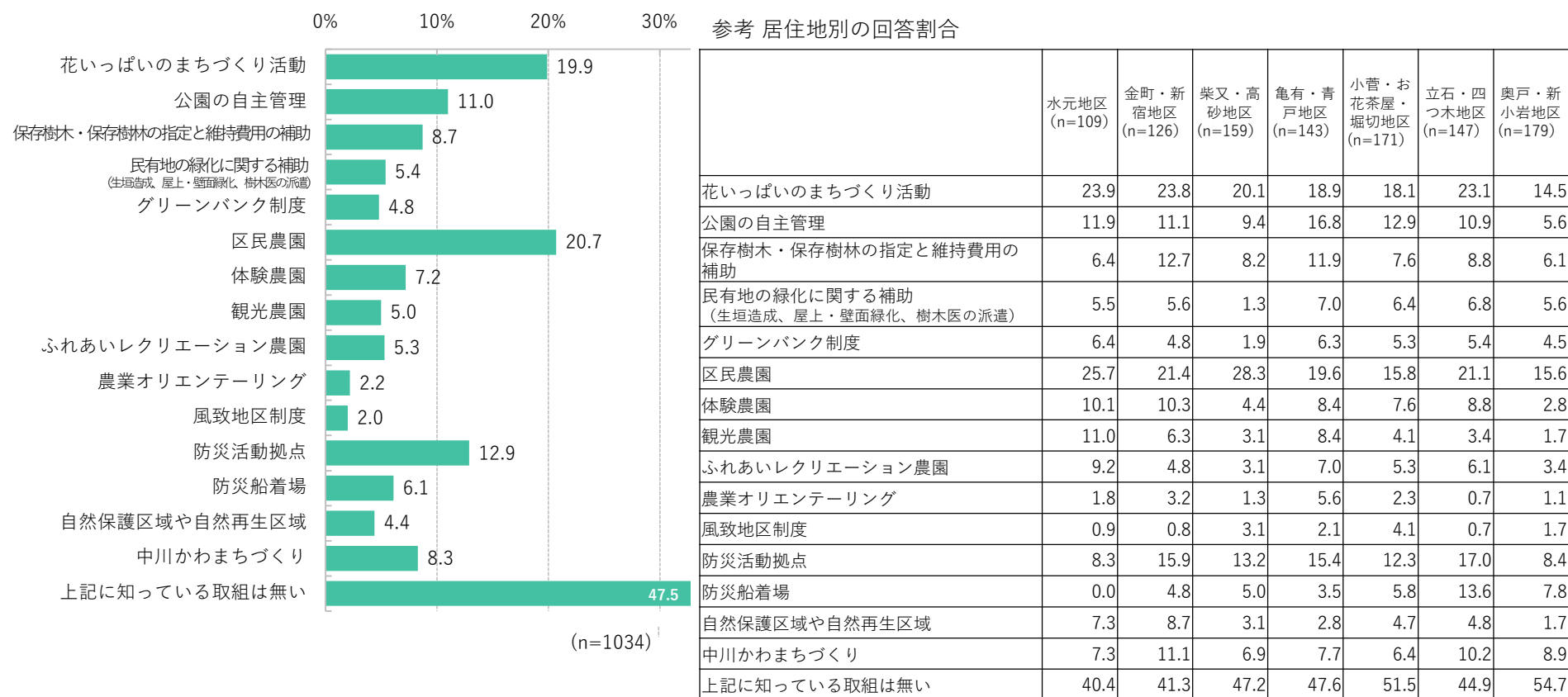
身近な公園に望むこと (3つまで選択)



⑪ 知っている区役所の取組

- ◇ 認知度が高い取組は、区民農園（20.7%）、花いっぱいのもちづくり活動（19.9%）。
- ◇ 47.5%の回答者が、選択肢に「知っている取組は無い」と答えており、区役所の取組の認知度は高くない。

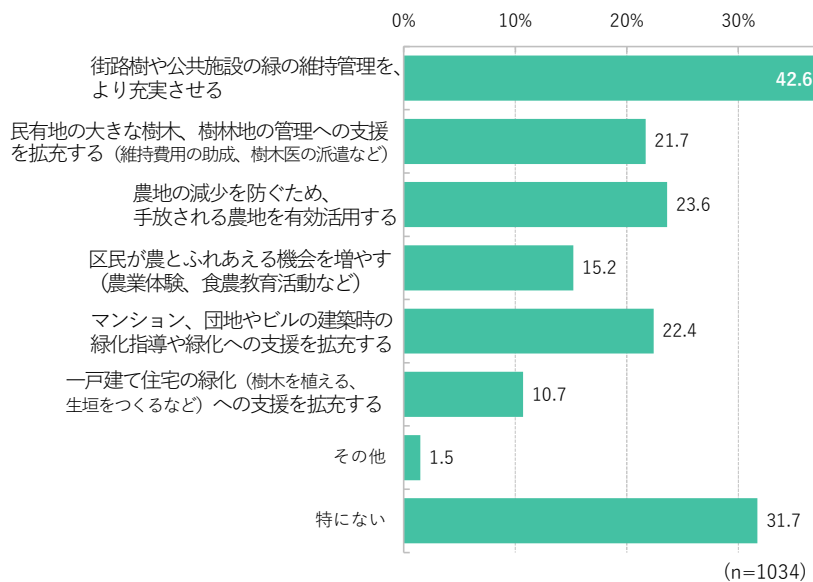
知っている区役所の取組（複数回答）



⑱ 区内の緑に関して区役所に期待する取組

- ◇ 「街路樹や公共施設の緑の維持管理を、より充実させる」の回答割合が高い。
- ◇ 居住地別では、街路樹や公共施設の緑の維持管理の充実の回答割合が、金町・新宿地区と立石・四つ木地区において他地区より高く、農地の有効活用の割合が、水元地区において他地区より高い。

区内の緑に関して区役所に期待する取組（3つまで選択）



参考 居住地別の回答割合

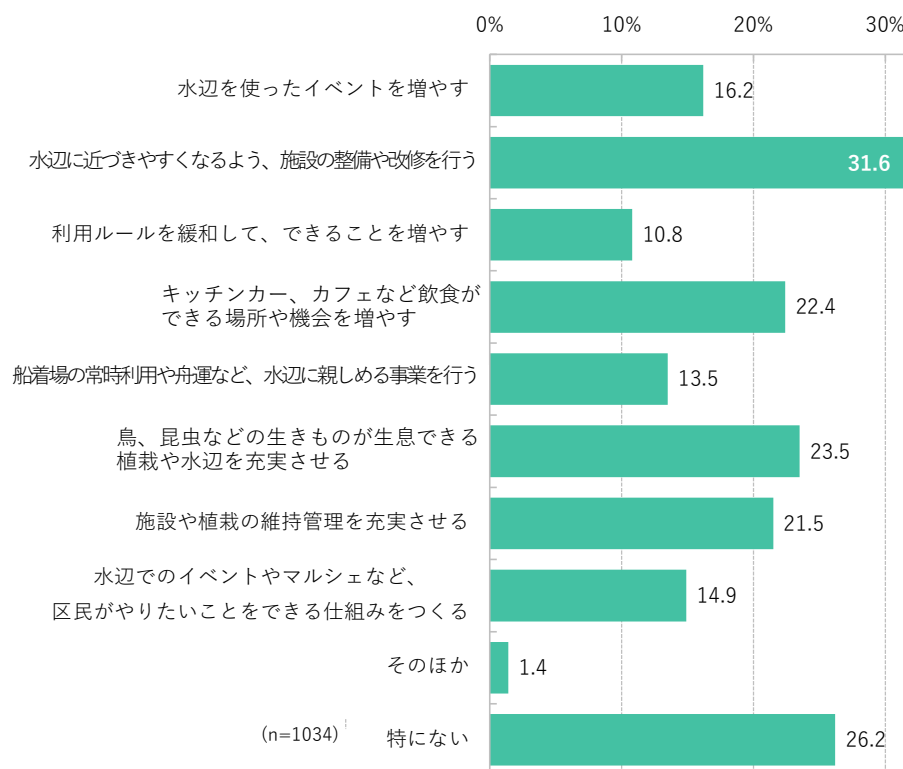
	水元地区 (n=109)	金町・新宿地区 (n=126)	柴又・高砂地区 (n=159)	亀有・青戸地区 (n=143)	小菅・お花茶屋・堀切地区 (n=171)	立石・四つ木地区 (n=147)	奥戸・新小岩地区 (n=179)
街路樹や公共施設の緑の維持管理を、より充実させる	40.4	49.2	40.3	39.2	40.4	52.4	38.5
民有地の大きな樹木、樹林地の管理への支援を拡充する（維持費用の助成、樹木医の派遣など）	22.0	22.2	18.9	17.5	20.5	26.5	24.0
農地の減少を防ぐため、手放される農地を有効活用する	31.2	27.0	20.1	22.4	19.9	25.9	22.3
区民が農とふれあえる機会を増やす（農業体験、食農教育活動など）	10.1	16.7	19.5	16.8	17.0	12.9	12.3
マンション、団地やビルの建築時の緑化指導や緑化への支援を拡充する	21.1	34.9	18.9	25.9	19.3	18.4	21.2
一戸建て住宅の緑化（樹木を植える、生け垣をつくるなど）への支援を拡充する	16.5	9.5	11.9	8.4	11.7	14.3	5.0
その他	0.0	1.6	1.3	3.5	1.8	0.7	1.7
特にない	27.5	23.0	35.8	30.1	33.3	29.9	38.0

⑪ 区内の水辺に関して区役所に期待する取組

◇ 「水辺に近づきやすくなるよう、施設の整備や改修を行う」（31.6%）が最も多く、また、年齢が高くなるほど高い割合となっている。

◇ 「キッチンカー、カフェなど飲食ができる場所や機会を増やす」の回答割合は40代以下が高い。

区内の水辺に関して区役所に期待する取組（3つまで選択）



参考 年齢別の回答割合

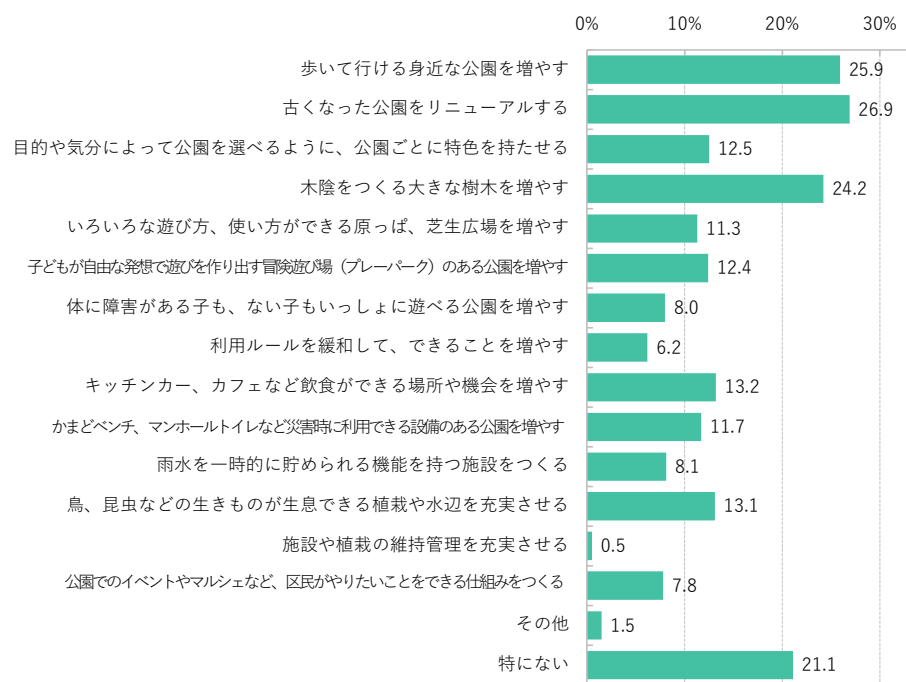
	10代 (n=5)	20代 (n=60)	30代 (n=104)	40代 (n=184)	50代 (n=344)	60代 (n=241)	70代 以上 (n=96)
水辺を使ったイベントを増やす	20.0	11.7	22.1	16.3	16.6	16.2	10.4
水辺に近づきやすくなるよう、施設の整備や改修を行う	20.0	26.7	27.9	29.3	27.6	36.5	45.8
利用ルールを緩和して、できることを増やす	20.0	15.0	15.4	8.7	8.7	12.4	10.4
キッチンカー、カフェなど飲食ができる場所や機会を増やす	0.0	35.0	26.0	27.2	21.5	19.5	13.5
船着場の常時利用や舟運など、水辺に親しめる事業を行う	60.0	3.3	11.5	15.2	13.4	14.5	14.6
鳥、昆虫などの生きものが生息できる植栽や水辺を充実させる	60.0	18.3	12.5	21.7	21.5	26.1	40.6
施設や植栽の維持管理を充実させる	20.0	20.0	21.2	21.2	16.9	21.6	39.6
水辺でのイベントやマルシェなど、区民がやりたいことをできる仕組みをつくる	20.0	21.7	16.3	16.8	12.5	13.7	16.7
そのほか	0.0	0.0	1.9	1.6	1.2	1.7	1.0
特になし	0.0	23.3	27.9	27.7	31.4	23.7	12.5

②⑩ 区内の公園に関して区役所に期待する取組

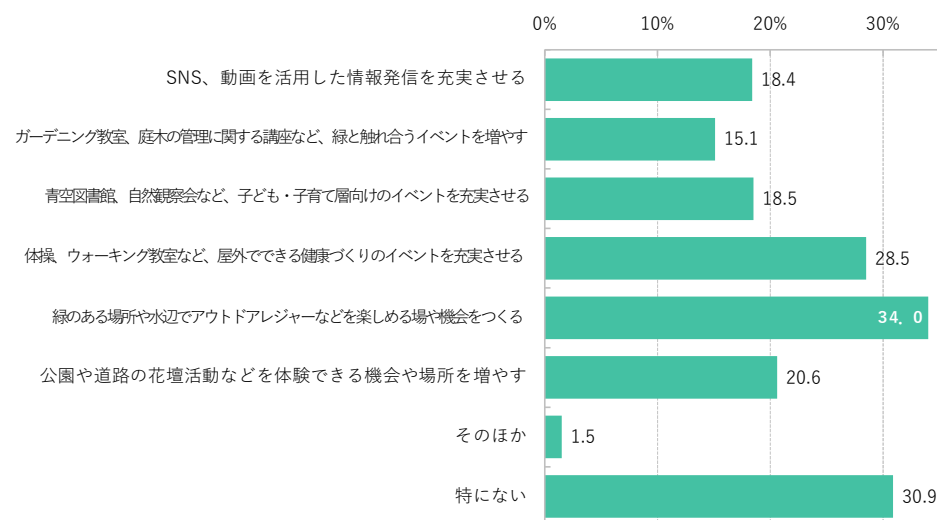
②⑪ 区民が緑や水辺とふれあう機会を増やすため区役所に期待する取組

- ◇ 「古くなった公園をリニューアルする」(26.9%)、「歩いて行ける身近な公園を増やす」(25.9%)、「木陰をつくる大きな樹木を増やす」(24.2%)の回答割合が高い。
- ◇ 「緑のある場所や水辺でアウトドアレジャーなどを楽しめる場や機会をつくる」(34.0%)が最も多く、次いで「特にない」(30.9%)、「体操、ウォーキング教室など、屋外でできる健康づくりのイベントを充実させる」(28.5%)となっている。

区内の公園に関して区役所に期待する取組（3つまで選択）



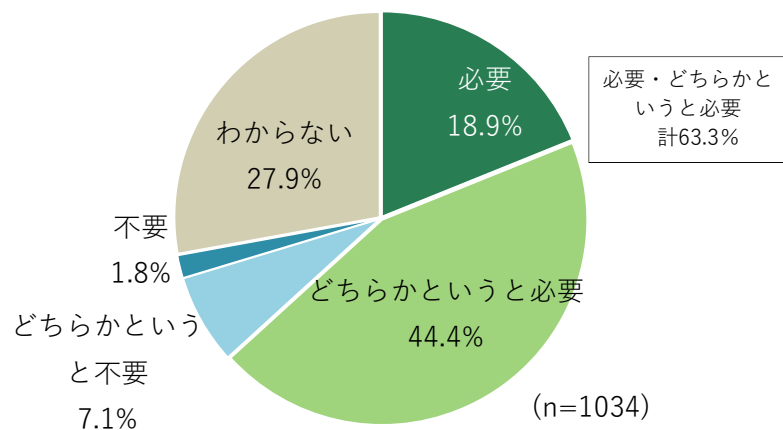
区民が緑や水辺とふれあう機会を増やすために区役所に期待する取組（3つまで選択）



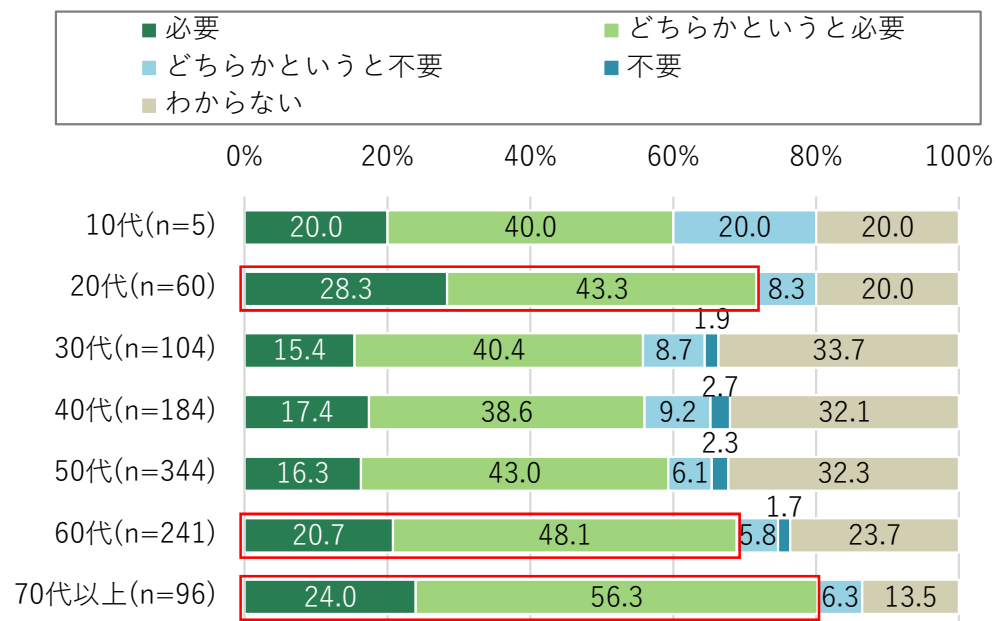
② 緑化推進や水辺の活用によるまちの魅力向上のための協働の取組の必要性

- ◇ 必要・どちらかという必要の合計が63.3%で、必要性を感じている人が多い。
- ◇ 年齢別にみると、20代、60代及び70代以上において、必要性を感じている人の割合が高い。

【全体】



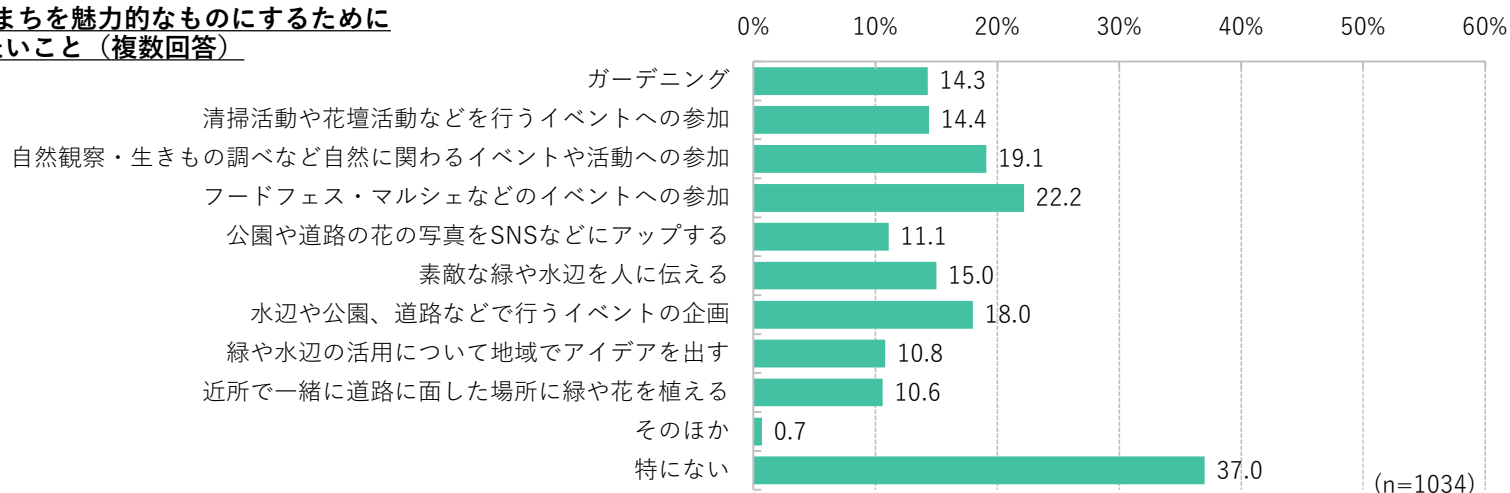
【年齢別】



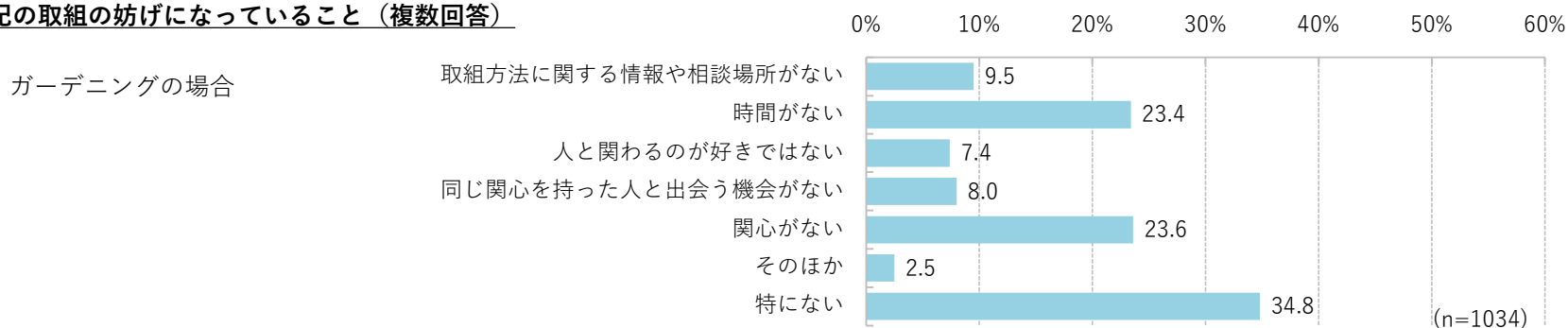
②③ 緑や水辺によって、まちを今よりも魅力的なものにするためにしてみたいこと

- ◇ 自身で取り組んでみたいことで回答のあったうち「フードフェス・マルシェなどのイベントへの参加」（22.2%）が最も多く、次いで「自然観察・生きもの調べなど自然に関わるイベントや活動への参加」（19.1%）、「水辺や公園、道路などで行うイベントの企画」（18.0%）の割合が高い。
- ◇ 取り組んでみたいことの妨げになっていることは「特にない」（34.8%）のほか「時間がない」「関心がない」が約2割を占める。

緑や水辺によって、まちを魅力的なものにするために
してみたいこと（複数回答）



上記の取組の妨げになっていること（複数回答）



3 結果のまとめ

結果のまとめ

緑・公園に対する意識

【緑の量やまちの魅力としての緑の満足度に対する意識】

- 居住地別の、住まい周辺の緑の量に対する実感やまちの魅力としての緑の満足度は、地区別の緑被率と大きくは乖離していない。
- 半数以上の回答者が過去10年で緑の量が増えた・減った場所はないと捉えている。
- 多くの回答者が緑が多い・身近と感じる場所は「公園」で、今後増やしていく必要があると感じる緑は「公園の緑」「道路沿いの緑」。

【緑との関わり、区に期待する取組】

- 緑に触れる主な機会として回答があったうち、「樹木や草花を楽しむこと等を目的とした公園利用・散策」が最も多く、次いで「自然観察」「自宅でのガーデニング」の割合が高い。

水辺に対する意識

- 区内で親しみを感じる水辺は「荒川、江戸川の河川敷」が最も多く、次いで「中川・新中川の親水テラス」となっている。
- 水辺の利用は「散策」や「ウォーキング、ジョギングなど健康づくり」が多く選ばれており、今後したい利用もほぼ同じ傾向。

区の取組に対する認知度と期待

- 認知度が比較的高い区の取組は、「区民農園」「花いっぱいのまちづくり活動」。
- 緑にふれる機会や、緑・水辺・公園などに関して区に期待する取組は、「特になし」とする回答が一定数（2～4割）見られる。
- 緑については「街路樹や公共施設の緑の維持管理の充実」、水辺については「水辺に近づきやすくなるよう、施設の整備や改修を行う」、公園については「古くなった公園をリニューアル」「歩いて行ける身近な公園を増やす」「木陰をつくる大きな樹木を増やす」などが多く選ばれている。
- 水と緑に触れあう機会を増やすための取組として、「アウトドアレジャーが楽しめる場や機会をつくる」や「健康づくりイベントの充実」が多く選ばれている。

4 区民アンケート（小・中学生） 調査概要

調査概要

対象

区立学校に通う
小学5年生・中学2年生

方法

オンライン回答（任意）
学校を通じた調査の周知、支給しているタブレット端末等による

目的

- 緑に対する意識の把握
- 公園の利用頻度などの把握
- 水辺の認知度や利用状況の把握
- 緑・水辺の利用方法やニーズの把握

期間

令和6年12月9日（月）
～12月26日（木）

回答数

小学
5年生 回答数 757件
回答率 22.2%

中学
2年生 回答数 500件
回答率 17.8%

地区	小学5年生		中学2年生	
	対象者 (人)	回答数 (人)	対象者 (人)	回答数 (人)
水元	436	113	467	16
金町・新宿	424	79	365	13
柴又・高砂	524	195	336	133
亀有・青戸	473	101	356	23
小菅・お花茶屋・堀切	645	58	410	87
立石・四つ木	395	136	468	101
奥戸・新小岩	515	72	407	126
無回答	－	3	－	1
合計	3412	757	2809	500

※対象者数は、令和6年12月1日時点の児童・生徒数

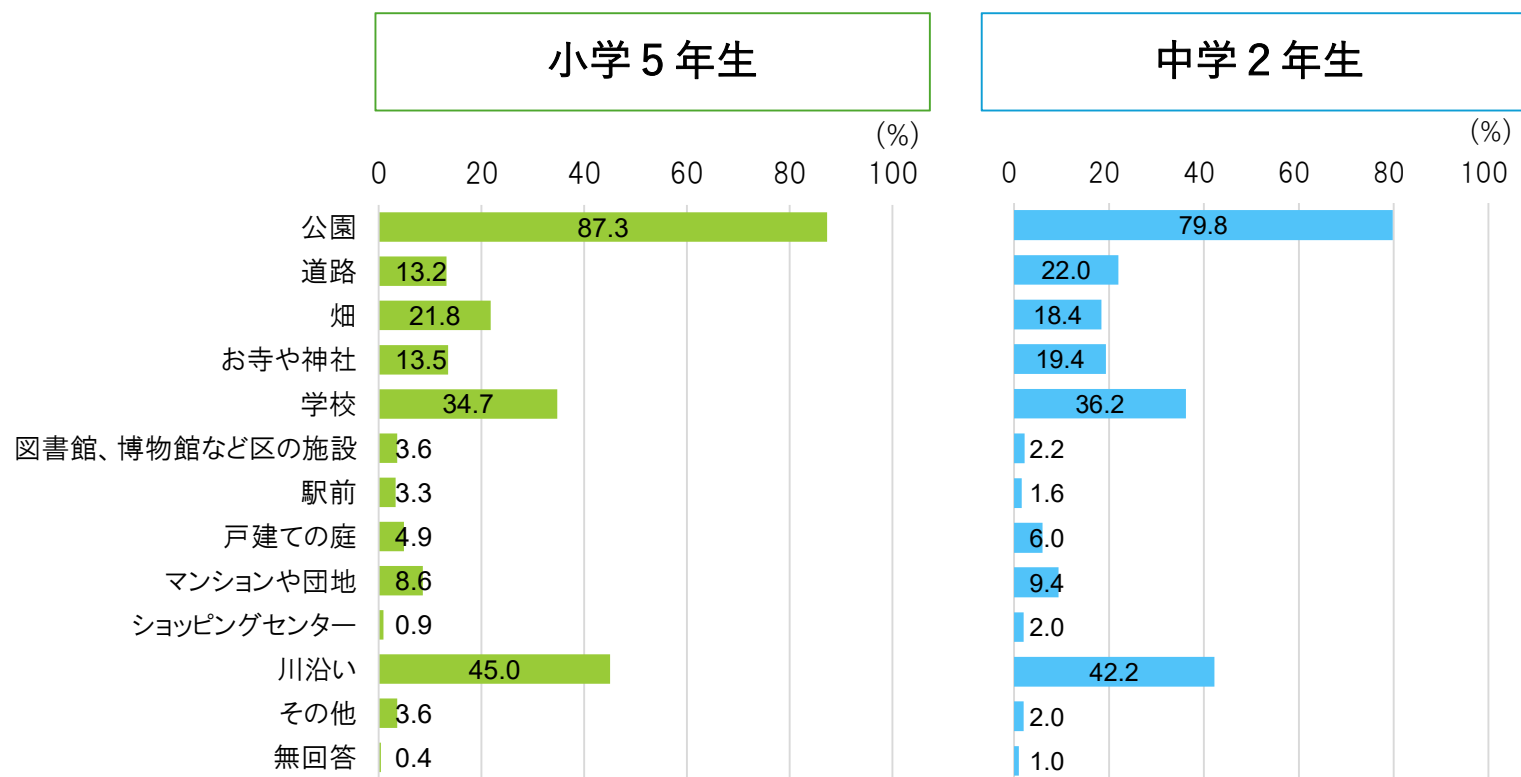
5 主な設問の集計結果

① 家や学校の周りで、「緑」がたくさんあると感じる場所

◇ 両学年とも、「公園」「川沿い」「学校」を、緑がたくさんある場所と感じている。

◇ 次いで多いのは、「道路」「畑」「お寺や神社」である。

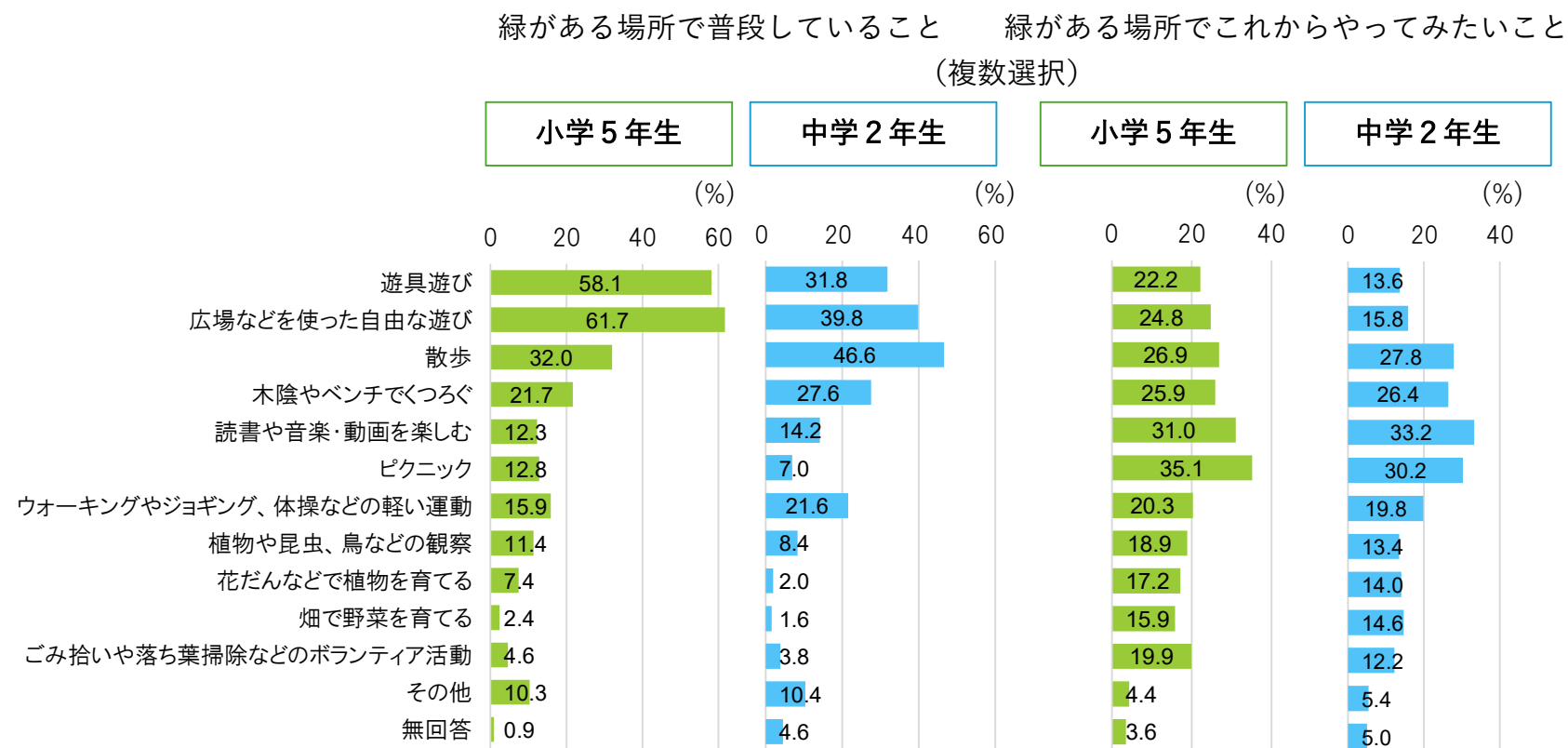
家や学校の周りで、「緑」がたくさんあると感じる場所（3つまで選択）



② 緑がある場所で普段していること

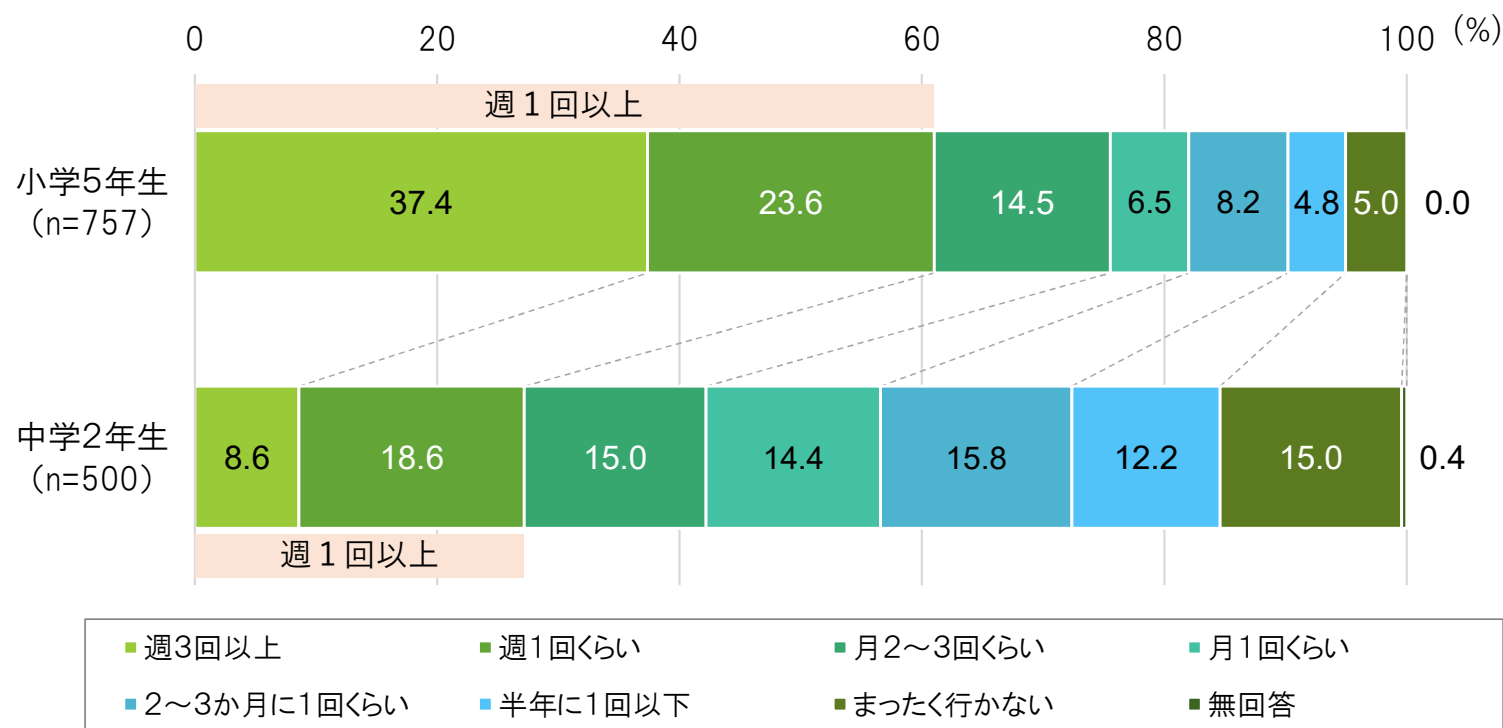
③ 緑がある場所でこれからやってみたいこと

- ◇ 緑がある場所で普段していることは、小学5年生は、「広場などを使った自由な遊び」「遊具遊び」が多く、中学2年生は、遊びの割合が低下し、「散歩」の割合が高い。
- ◇ 緑がある場所でこれからやってみたいことは、両学年とも、普段はあまりしていない「読書や音楽・動画を楽しむ」「ピクニック」をはじめ、軽い運動、生きものの観察、植物や野菜の育成、ボランティア活動など、幅広いニーズが見られる。



④ 公園に行く頻度

- ◇ 小学5年生は「週3回以上」が最も多く、次いで「週1回くらい」「月2～3回くらい」が多い。
- ◇ 中学2年生は、小学生より公園に行く頻度が低く、「週1回くらい」が最も多い。
- ◇ 週1回以上行く割合を比べると、小学5年生 61.0%に対し、中学2年生は半数以下の27.2%である。



⑤ お気に入りの公園（1つだけ記入）

◇ 両学年とも1位は「水元公園」。お気に入りの理由は、広いこと、緑や自然が豊かであることが挙げられている。

◇ 2番目以下についても、広くて楽しめることが理由に挙げられている。

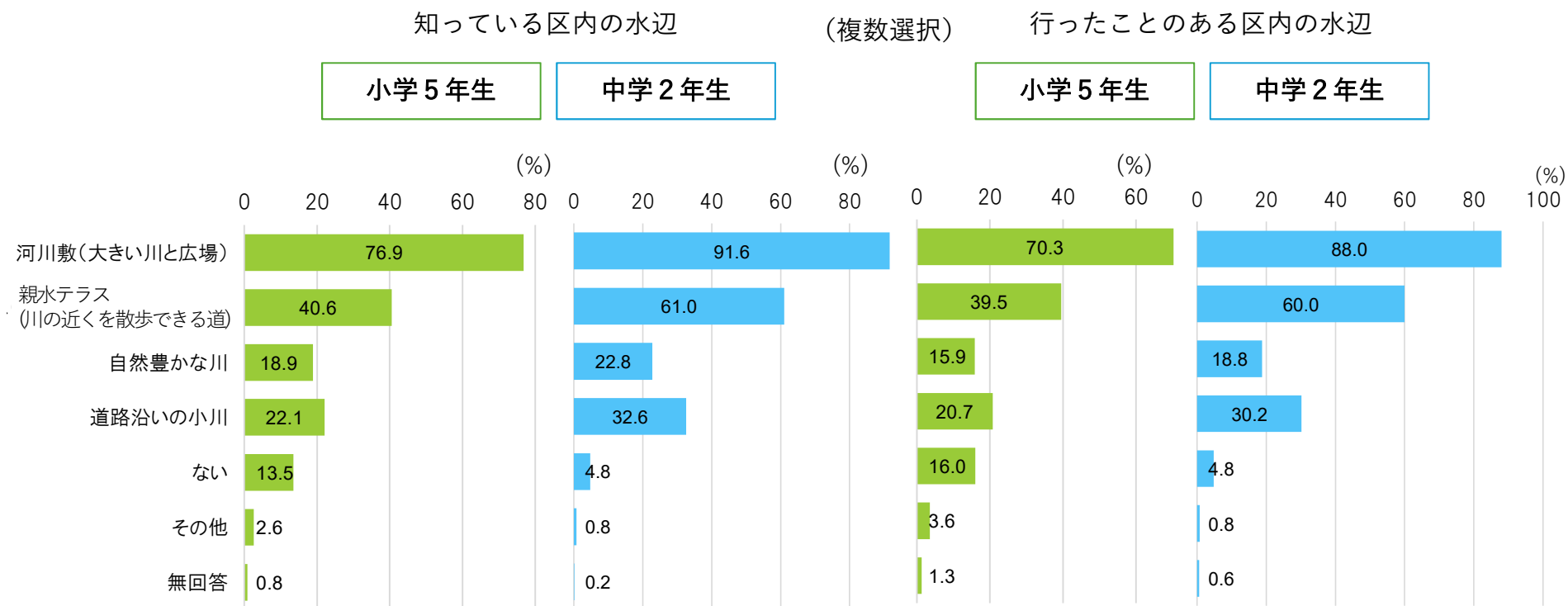
小学5年生	
公園名（上位10公園程度）	回答数（件）
水元公園	58
金町公園	55
渋谷公園	51
東立石緑地公園	45
西水元水辺の公園	27
青戸七丁目共和公園	24
新宿一丁目児童遊園	19
高砂北公園	17
新宿交通公園	13
モンチッチ公園	13
ない・無回答 計	130

中学2年生	
公園名（上位10公園程度）	回答数（件）
水元公園	28
鎌倉公園	27
東立石緑地公園	22
青戸平和公園	18
北沼公園	16
渋谷公園	12
新小岩公園	12
東新小岩二丁目かがやき公園	8
奥戸南汐公園	6
小菅東スポーツ公園	6
ない・無回答 計	188

⑥ 知っている区内の水辺

⑦ 行ったことのある水辺

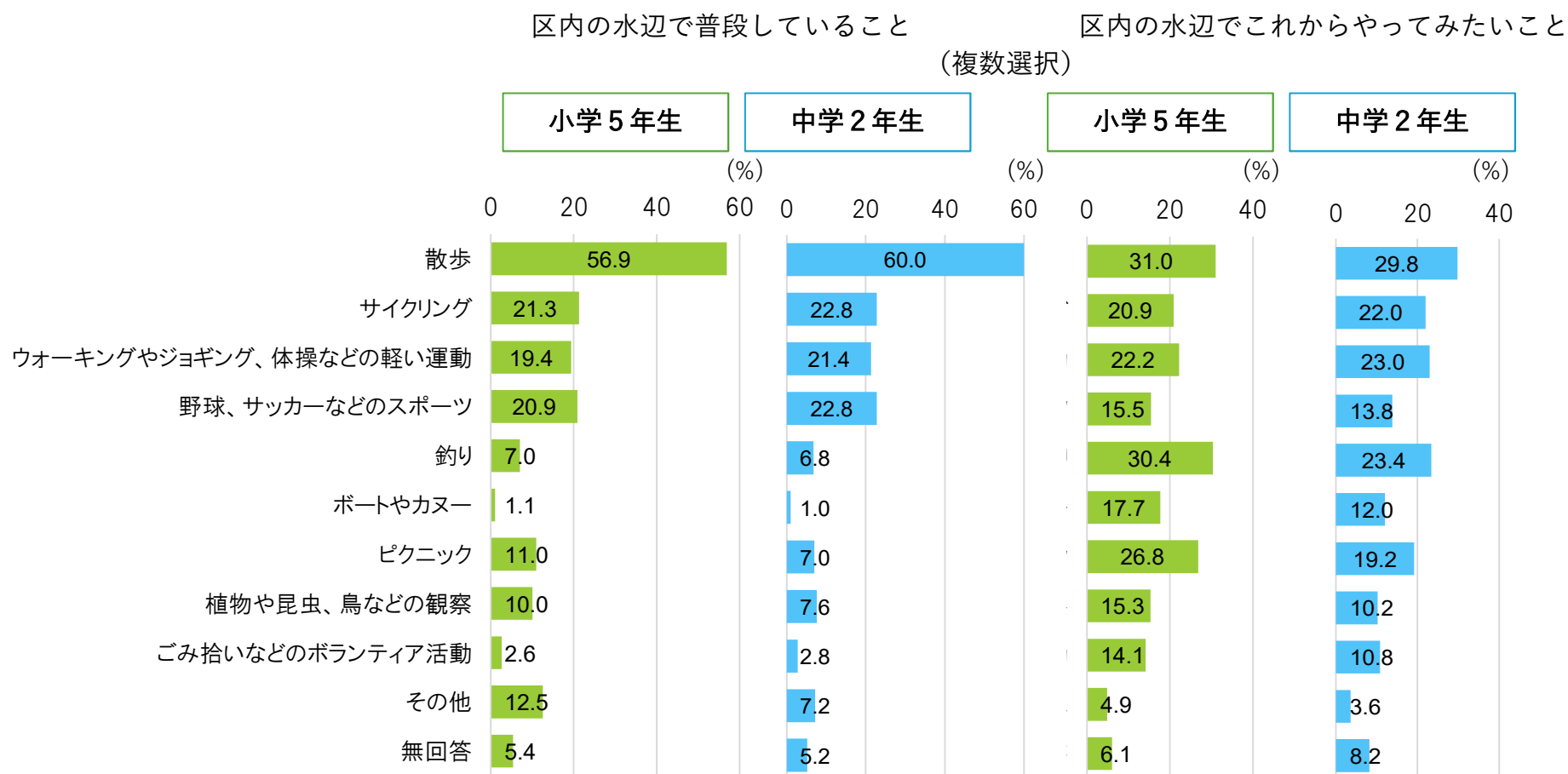
◇ 知っている水辺、行ったことのある水辺ともに「河川敷（大きい川と広場）」が最も多く、次いで「親水テラス（川の近くを散歩できる道）」「道路沿いの小川」となっている。



⑧ 区内の水辺で普段していること

⑨ 区内の水辺でこれからやってみたいこと

- ◇ 普段していることは、両学年とも「散歩」が最も多く、次いで「サイクリング」「野球、サッカーなどのスポーツ」「ウォーキングやジョギング、体操などの軽い運動」といった動的な利用が多い。
- ◇ これからやってみたいことは、両学年とも「散歩」が最も多く、普段はあまりしていない「釣り」「ピクニック」への関心も高い。



⑩ お気に入りの水辺（１つだけ記入）

- ◇ 両学年とも１位は「中川」であった。お気に入りの理由は、家から近く、よく見る・行く・利用する場所だからといったことが挙げられている。
- ◇ ２位以下においても、荒川、江戸川など広々とした場所が多く選ばれており、広い、よく利用する、気持ちがいいなどが理由に挙げられている。

小学５年生	
水辺名（上位10か所程度）	回答数（件）
中川	57
河川敷	32
西水元水辺の公園	25
水元公園	17
土手	16
江戸川	14
荒川	11
江戸川の河川敷	10
親水公園	8
水辺の公園	8
ない・無回答 計	446

中学２年生	
水辺名（上位10か所程度）	回答数（件）
中川	37
河川敷	17
荒川	12
江戸川	9
土手	8
江戸川の河川敷	6
親水テラス	6
水元公園	5
中川の河川敷	4
メダカの小道	3
荒川の河川敷	3
新中川	3
ない・無回答 計	331

6 結果のまとめ

結果のまとめ

緑に対する意識や利用について

- 「公園」「川沿い」「学校」を緑がたくさんある場所と感じている。
- 緑のある場所で普段していることは小学5年生は遊具遊びや広場などを使った自由な遊びなど、「遊び」が主であるのに対し、中学2年生は「散歩」の割合が高い。
- これからしてみたいことは、普段していることでは15%以下となった「読書や音楽・動画を楽しむ」「ピクニック」への関心が比較的高く、普段の利用と比較して幅広いニーズが見られる。

水辺の認知度や利用について

- 「知っている水辺」「行ったことのある水辺」ともに、「河川敷（大きい川と広場）」「親水テラス（川の近くを散歩できる道）」が多く選ばれている。
- 水辺で普段していることは「散歩」「サイクリング」「野球、サッカーなどのスポーツ」「ウォーキングやジョギング、体操などの軽い運動」の割合が高い。
- これからしてみたいことは、普段していることに加え、普段していることでは12%以下となった「釣り」や「ピクニック」への関心も高い。